

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	コース	全コース
教科書	『みのり』（本願寺出版社）						
副教材等	・ 聖典聖歌（龍谷総合学園） ・ 日々の糧（相愛学園） ・ リーフレット						

1 学習の到達目標

一年生で養った仏教精神を更に高めていく。縁起観（全てのものは関係性の中に仮に成り立つ）をみながら、教科書「みのり」の目的である「真実に生きる生き方」を考える。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

2 年生では仏教を開かれた釈尊の生涯を学び、仏教の教えを中心に学びます。すべてのものは繋がりの中に存在するということを通じて、個としての自分だけではなく、全体に影響する自分をみつめてみましょう。また、先人たちの行動（身）・言葉（口）・こころ（意）を学び自己の新たな発展につなげてみましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	釈尊の生涯について理解を深め、その教えを正しく理解しているか。また、知識としての理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっている。	釈尊の教えに触れることで、宗教を通じて実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現している。	宗教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト	定期考査 パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	お釈迦さまの生涯に学ぶ	オリエンテーション はじめに 三大宗教・仏教とは 1. 誕生 （六道） 2. 悩み ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○		I：世界三大宗教についての理解を深め、身近にある宗教について考える。 ◇釈尊の幼少期にどのような生活を送っていたのかを理解する。 II：仏教を開かれた釈尊について、誕生のエピソードより、いのちの尊さについて考える。また、日々の糧の内容について自分の問題としてとらえて表現できる。 III：釈尊の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
		3. 出家 4. 修行 まとめ 期末考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○	I：釈尊がどのような経緯で出家に到ったのか、その背景について理解している。 II：釈尊が行った修行において、どのような気づきがあったのかを理解する。 III：釈尊の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	
2 学期 中間	お釈迦さまの生涯に学ぶ	5. 成道 6. 伝道① （初転法輪・四諦八正道） 7. 伝道② （縁起） ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○	I：釈尊の伝道について、初めての説法から仏教の中心的な教えである四諦八正道について理解する。また、縁起について正しく理解する。 II：釈尊が成道するまでにどのような葛藤があったのか理解する。 III：釈尊の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	
		8. 伝道③ （対機説法・応病与薬） 9. 最後の旅	○	○		I：釈尊の伝道方法について学ぶ。釈尊の晩年の伝道生活にふれ、どのように仏教が広まったのかを理解する。	

期 末		10. 涅槃 (入滅) まとめ 期末考査 ※「日々の糧」・「聖典」の ことば・時事問題を交えな がら学習する。	○	○		Ⅱ：釈尊の涅槃についての状況を知り、 悟りとは何かを考える。 Ⅲ：釈尊の生涯から生き方について学 び、それを自分の問題として受け止 め、積極的に取り組むことができる。	
3 学 期	仏 教 説 話 に 学 ぶ	1. 爪の上の砂 2. ウサギの施し (ジャータカ①) 3. 捨身飼虎 (ジャータカ②) 4. 金色の鹿 (ジャータカ③) 5. キサー・ゴータミー (芥子の種の教え) ※「日々の糧」・「聖典」の ことば・時事問題を交えな がら学習する。 おわりに 学年末考査	○	○		Ⅰ：釈尊の前世物語である「ジャータカ」 より、仏教の教えについて理解する。 Ⅱ：「ジャータカ」の物語が何を伝えてい るのか十分理解し、いのちの尊さにつ いて考える。また、日々の糧の内容に ついて自分の問題としてとらえて表 現できる。 Ⅲ：釈尊の前世物語である「ジャータカ」 を自分の問題として受け止め、積極的 に取り組むことができる。	

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	国語	科目	国語	単位数	5	コース	全コース
教科書	「新編 新しい国語 2」 東京書籍 「中学書写」 光村図書						
副教材等	「国語スイッチ 2」 「新編 新しい国語 新出漢字の学習」 「常用国語便覧」 「増補版 すらすら基本文法」						

1 学習の到達目標

・ 様々な文章を読み考えることで、豊かな言語力、思考力、想像力を身につける。 ・ 古典の文章にふれて、古人の生き方や考え方を理解し、日本文化の豊かさを味わう。 ・ 自らの考えを表現し発表するとともに、他者の考えを理解する力を身につける。 ・ 読書の習慣を身につける。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学 1 年で習った内容を基礎として、様々な文章を読んで、内容を的確に理解する力と、自らの考えを表現する力を身につけましょう。本文を音読し、漢字や語句などを調べるなど、しっかり予習して授業に臨んでください。授業中は発問を多く行います。間違えることを恐れず、積極的に答えてください。また、古文、漢文に親しみ、時代背景や古典常識を学び、古典学習の基礎を固めましょう。口語文法は用言や助動詞、助詞など、重要なものを扱います。正しい日本語の力が身につくよう、積極的に取り組んでください。
--

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化を楽しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、漢字の行書と、それに調和した仮名を書き、楷書または行書を選んで書いている。	目的や意図に応じ、内容や表現の仕方に注して文章を読み、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。 目的や意図厚生を工夫し、伝えたいことが効果的に伝わるように文章を書いている。 目的や場所に応じ立場や考えの違いを踏まえて話したり、考えを比べながら聞いたり、相手の立場を尊重して話し合ったりしている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えを広げ、読書を生活に役立てようとする。
評 価 方 法	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露	・ 学習状況 ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。
--

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	言葉を感じる	『未来へ』谷川俊太郎 『手紙の効用』若松英輔 『短歌を楽しむ』道浦母都子 短歌五首 文法〔動詞〕	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・「読むこと」において、詩に描かれた言葉の意味などについて考え、内容を解釈している。詩の表現技法を理解している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、短歌に詠まれた情景や心情を想像し、内容を解釈している。「読むこと」において、短歌を比較するなどし、表現の効果について考えている。 ・動詞の活用について理解している。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
1 学期 期末	感想を深める	『字のない葉書』向田邦子 『辞書に描かれたもの』沢西祐典 文法〔形容詞・形容動詞〕 書写〔楷書と行書〕	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。文章を読んで考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。文章を読んで考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・形容詞と形容動詞の活用について理解している。 ・楷書と行書の特徴や違いについて理解している。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 中間	伝統文化を味わう	『枕草子』 『徒然草』 『平家物語』	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解している。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露

		文法〔文語・敬語・助詞〕	○			・文語と口語のちがい、敬語の使い方、助詞の用法について、理解している。	
2 学 期 期 末	描 写 を 味 わ う ・ 説 得 力 を 高 め る	『走れメロス』太宰治 『黄金の扇風機』田中真知 『サハラ砂漠の茶会』 文法〔助詞〕	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。文章の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えている。文章を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・助詞の用法について理解している。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
3 学 期	効 果 的 に 表 現 す る ・ 詩	『「正しい」言葉は信じられるか』香西秀信 『わたしが一番きれいだったとき』茨木のり子 『春望』杜甫	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考えている。「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 ・「読むこと」において、人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。詩を読んで考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。漢詩の構成や表現の効果について考えている。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	社会	科目	社会	単位数	4	コース	全コース
教科書	「中学社会 歴史的分野」 （日本文教出版）						
副教材等	「中学歴史資料集 学び考える歴史 大阪府版」 （浜島書店） 「中学必修テキスト 社会 歴史」 （株式会社 文理） 授業プリント						

1 学習の到達目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業をしっかりと聞いて、歴史の流れを理解しましょう。「なぜそうなったのか」という視点を常に持ってみましょう。また、歴史的な見方・考え方が修得できるよう、様々なネタをかき集め、時には、俗説、奇説、私説をまじえていきます。歴史の面白さ、楽しさを伝えることができれば幸いです。また、知識を追い求めるよりも今後に活用できる見方・考え方の育成を重視します。そのため、授業進度の調整を行い、投げ込みの教材も扱います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめているか。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとしている。
評 価 方 法	・ 定期考査 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応	・ 定期考査 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応 ・ ノート内の思考、判断、表現	・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応 ・ ノート内の思考、判断、表現

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	古 代 ま で の 日 本 と 世 界	第 2 編 古代までの日本と世界 2. 日本列島の人々と国家の形成	○	○	○	歴史的分野 第 2 編 2. I 日本列島における農耕の広まりや当時の人々の信仰、ヤマト王権による統一のようすと東アジアとの関わりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されたことを理解している。 仏教の伝来、律令国家の確立に至るまでの過程などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられていったことを理解している。 II 農耕の始まりや生産技術の発展の影響や東アジアとの交流による政治の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の国家の形成について多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査 確認テスト レポート 発問への対応 ノート内の思考、判断、表現
1 学 期 期 末	古 代 ま で の 日 本 と	第 2 編 古代までの日本と世界 3. 古代国家の展開 第 3 編 中世の日本と世界 1. 古代から中世へ	○	○	○	第 2 編 3. I 摂関政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 仮名文字の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、国際的な要素をもった文	定期考査 確認テスト レポート 発問への対応 ノート内の思考、判断、表現

世界・中世の日本と世界	2. 鎌倉幕府の成立 3. 室町幕府と下克上	○ ○	○ ○	○ ○	化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 Ⅱ 律令国家の政治の展開やその目的、東アジアの状況の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、天皇や貴族による政治や文化の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 Ⅲ 古代までの日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、古代までの時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。 第3編 1. Ⅰ 武士の登場や院政、平氏の政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が次第に力をつけていったことを理解している。 Ⅱ 武士と皇族・貴族との関係や貴族の政治と武士の政治のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が次第に力をつけていったことを多面的・多角的に考察し、表現している。 Ⅲ 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、中世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 第3編 2. Ⅰ 鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が台頭して主従の結び
-------------	---------------------------	--------	--------	--------	---

					つきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 Ⅱ 幕府と御家人の関係や農業や商工業の発達、国内と外国をむかえた戦いのちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 第3編 3. Ⅰ 南北朝の動乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解している。農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 Ⅱ 東アジアにおける交流、応仁の乱の影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 Ⅲ 中世の日本の学習をふり振り返りながら自身の学びを確認、調整しようとする	
--	--	--	--	--	---	--

						るとともに、中世の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。	
2 学 期 中 間	近 世 の 日 本 と 世 界	第4編 近世の日本と世界 1. 中世から近世へ 2. 江戸幕府の成立と東アジア 1. 産業の発達と元禄文化	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	第4編 1. I ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。 II 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世社会の基礎がつけられたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 III 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 第4編 2. I 江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村のようす、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 II 統一政権の諸政策の目的や幕府、藩、隣接地域の関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府と藩による支配が確立したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 第4編 3. I 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調	定期考査 確認テスト レポート 発問への対応 ノート内の思考、判断、表現

					べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 Ⅱ 新田開発や新しい技術が開発されたことの影響や文化の時期、場所、担い手などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。	
2 学 期 末	近 世 の 日 本 と 世 界 ・ 近 代 の 日 本 と 世 界	第4編 近世の日本と世界 2. 幕府政治の改革と農村の変化 第5編 近代の日本と世界 第1章 日本の近代化 1. 欧米の発展とアジアの植民地化 2. 近世から近代へ 3. 近代国家へのあゆみ	○	○	○ 	

					政治や社会の変化と影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを多面的・多角的に考察し、表現している。 Ⅲ 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（前半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 第1章 2. Ⅰ 欧米諸国の接近や開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きが生み出されたことを理解している。 Ⅱ 国内外の変化に対する幕府と諸藩の対応のちがいや幕府を批判する勢力の主張の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きが生み出されたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 第1章 3. Ⅰ 富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 Ⅱ 幕藩体制とのちがいや諸政策の目的、諸外国との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化した	
--	--	--	--	--	---	--

					ことについて多面的・多角的に考察し、表現している。	
3 学 期	近 代 の 日 本 と 世 界	第5編 近代の日本と世界 第1章 日本の近代化 4. 立憲国家の成立 5. 日清・日露の戦争と東アジアの動き 6. 近代の日本の社会と文化 第2章 二度の世界大戦と日本 1. 第1次世界大戦と戦後の世界	○	○	第1章 4. I 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解している。 II 国民と政府の国会開設やめざした憲法の在り方のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 第1章 5. I 日清・日露戦争などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、戦争に至るまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化が行われたことを理解している。 条約改正などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、長年の外交上の課題として取り組まれた欧米諸国との対等な外交関係の樹立が達成されたことを理解している。 II 日清・日露戦争が起こった背景や結果、国内外の反応、条約改正が達成された過程などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の国際的地位が向上したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 第1章 6. I 日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、諸資料から歴史に	定期考査 確認テスト レポート 発問への対応 ノート内の思考、判断、表現

					関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 Ⅱ 産業の発展が国民の生活や文化に与えた影響に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 近代（前半）の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 Ⅲ 近代（前半）の日本の学習を振り返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代（前半）の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。 第2章 1. Ⅰ 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて理解している。 Ⅱ 経済の変化の政治への影響、世界の動きと日本との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 Ⅲ 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（後半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
--	--	--	--	--	--	--

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	数学	科目	数学	単位数	4	コース	全コース
教科書	これからの数学 2（数研出版）						
副教材等	中学必修テキスト 2 年 スピードテスト スタディサプリ						

1 学習の到達目標

・単項式，多項式に関する用語を理解し，正しく使うことができるようになる。 ・同類項をまとめる計算を基本として，多項式の加法と減法，多項式と数の乗法と除法などいろいろな計算の方法を理解し，その計算ができるようになる。 ・単項式どうしの乗法，除法や乗法と除法の混じった式の計算方法を理解しその計算ができるようになる。 ・式の値の意味を理解し，単純な式の値や式を簡単にしてから値を求める方法を知り，それらの計算ができるようになる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

新しい単元の基本事項は授業内で理解し、分からないときは分かるまで質問しましょう。また、授業内の問題演習で基本の定着を図ってください。家庭学習では授業ノートを参考にして、復習をしっかりと行い、同じ問題を繰り返し解くようにしてください。 授業終わりなどのタイミングで課題が配信されることがあります。見逃すことがないように取り組んでいきましょう。
--

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	文字を用いた式と連立二元一次方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする	数学的な楽しみや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

		力を養う。	
評価方法	小テスト スピードテスト 定期考査	小テスト 定期考査 レポート課題	レポート課題 提出物
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第 1 章 式の計算	①式の計算	○	○	○	I ○単項式と多項式の意味を理解している。 ○簡単な多項式の加法や減法の計算方法を理解し、それらの計算をすることができる。 ○多項式に数をかける計算の方法を理解し、それらの計算をすることができる。 ○単項式どうしの乗法や除法の計算方法を理解し、それらの計算をすることができる。 II ○簡単な多項式の加法や減法や、多項式に数をかける計算について、数の計算や 1 年で学習した文字式の計算と関連づけて考察し、説明することができる。 ○単項式どうしの乗法や除法の計算について、数の計算や 1 年で学習した文字式の計算と関連づけて考察し、説明することができる。 ○式の値を能率的に求める方法について考え、説明することができる。 III	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

		②文字式の利用	○	○	○	○簡単な多項式の加法や減法の計算方法を考えようとしている。 ○多項式に数をかける計算の方法を考えようとしている。 ○単項式どうしの乗法や除法の計算方法を考えようとしている。 ○式の値の求め方について，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 I ○文字式で一般的に表現し説明することの必要性和意味を理解している。 ○関係を表す式を，等式の性質などを用いて目的に合うように変形することができる。 II ○文字式を具体的な場面で利用することができる。 III ○文字式で一般的に表現し説明することの必要性和意味を考えようとしている。 ○文字式を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 ○式の計算について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○具体的な場面に即して目的に応じて式を変形しようとしている。	
1 学 期 期 末	第 2 章 連 立 方 程 式	①連立方程式	○	○	○	I ○2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ○連立方程式の必要性和意味および連立方程式の解の意味を理解している。 ○簡単な連立方程式の解き方を理解し，解くことができる。 ○かっこや分数，小数を含んだ連立方程式を解くことができる。 ○$A=B=C$の形をした方程式を解くことができる。 II	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

	第 3 章 1 次 関 数	②連立方程式の利用	○	○	○	○1 元 1 次方程式と関連づけて、連立方程式の解き方について考察し、説明することができる。 Ⅲ ○連立方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ○連立方程式の解き方の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 Ⅰ ○連立方程式を利用して具体的な場面における問題を解決する手順を理解している。 Ⅱ ○連立方程式を具体的な場面で利用することができる。 ○得られた結果を意味付けしたり利用したりすることができる。 Ⅲ ○連立方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○連立方程式を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	
		①1 次関数	○	○	○	Ⅰ ○1 次関数の意味を理解している。 ○事象の中に 1 次関数を用いてとらえられるものがあることを知っている。 ○比例が 1 次関数の特別な場合であることを理解している。 ○1 次関数の変化の割合を理解している。 ○1 次関数をグラフに表すことができる。 ○与えられたいろいろな条件から 1 次関数や直線の式を求める方法を理解し、その式を求めることができる。 Ⅱ ○具体的な事象から 1 次関数の関係を見だし、見いだした関係について説明することができる。	

		②1 次関数と方程式 ③1 次関数の利用	○ ○ ○	○1 次関数の変化の仕方について, a の値に着目して考察することができる。 ○1 次関数の特徴を表, 式, グラフでとらえるとともに, それらを相互に関連づけて考察し, 説明することができる。 III ○1 次関数の表, 式, グラフを相互に関連づけようとしている。 I ○2 元 1 次方程式を, 関数関係を表した式とみることができる。 ○連立 2 元 1 次方程式の解が, 座標平面上の 2 直線の交点の座標として求められることを理解している。 II ○具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして, 変化や対応の様子を考察し, 予測することができる。 III ○1 次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○1 次関数を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	
2 学期中間	第 4 章 図形の性質と合同	①平行線と角	○ ○ ○	I ○平行線や角の性質を理解している。 ○論理的に説明することの必要性を理解している。 ○多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。 ○多角形の内角の和を求めることができる。 II ○2 直線の位置関係と同位角や錯角の大きさについて考察することができる。 ○三角形の内角や外角の性質や関係について, 平行線の性質をもとにして説明す	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

		②三角形の合同	○	○	ることができる。 ○角の大きさを求める過程で用いられている図形の性質や関係について説明することができる。 ○多角形の内角の和や外角の和について考察し、説明することができる。 Ⅲ ○論理的に説明することの必要性を考えようとしている。 Ⅰ ○平面図形の合同の意味を理解している。 ○三角形の合同条件を理解している。 Ⅱ ○2 つの三角形が合同であるかどうかについて、三角形の合同条件をもとにして説明することができる。	
		③証明	○	○	○ Ⅰ ○証明の必要性と意味およびその方法を理解している。 Ⅱ ○見通しをもって証明の方針を立てることができる。 Ⅲ ○証明の必要性と意味を考え、根拠を明らかにして証明しようとしている。 ○証明の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	
2 学 期 期 末	第 5 章 三 角 形 と 四 角	①三角形	○	○	○ Ⅰ ○証明の必要性と意味を理解している。 ○正三角形が二等辺三角形の特別な場合であることを理解している。 ○直角三角形の合同条件を理解している。 ○逆や反例の意味を理解している。 Ⅱ ○二等辺三角形の性質や二等辺三角形になるための条件を論理的に考察し、証明	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

	形				することができる。 ○二等辺三角形の性質の証明を振り返り，新たな性質を見いだすことができる。 ○正三角形の性質や正三角形になるための条件を論理的に考察し，証明することができる。 ○三角形の合同条件をもとにして，直角三角形の合同条件を見いだすことができる。 ○2つの直角三角形が合同であるかどうかについて，直角三角形の合同条件をもとにして説明することができる。 ○直角三角形の合同を利用した証明を振り返り，新たな性質を見いだすことができる。 ○命題がつねに成り立つとは限らない場合を，反例をあげて説明することができる。 Ⅲ ○二等辺三角形の性質や二等辺三角形になるための条件を論理的に考察しようとしている。 ○証明の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 ○正三角形の性質や正三角形になるための条件を論理的に考察しようとしている。 ○直角三角形の合同条件を見いだそうとしている。 ○証明の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	
	②四角形	○	○	○	I ○平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件を理解している。 ○平行四辺形，長方形，ひし形，正方形の間の関係を理解している。 ○底辺を共有する三角形の面積の関係をもとにして，面積を変えずに図形を変形	

					することができる。 Ⅱ ○平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件を論理的に考察し、証明することができる。 ○平行四辺形の性質を具体的な場面で活用することができる。 ○平行四辺形、長方形、ひし形、正方形の間の関係を論理的に考察し、まとめることができる。 ○底辺を共有する三角形の面積の関係を具体的な場面で活用することができる。 Ⅲ ○証明の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 ○平行四辺形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○面積が等しい三角形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。	
3 学期	第 6 章 データの活用	①データの散らばり ○ ○ ○ ②データの傾向と調査 ○ ○	○	○	Ⅰ ○四分位数および四分位範囲の必要性和意味を理解している。 ○箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 ○コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し、箱ひげ図で表すことができる。 Ⅱ ○箱ひげ図とヒストグラムを考察し、説明することができる。 Ⅲ ○四分位数および四分位範囲の必要性和意味を考えようとしている。 ○箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。 Ⅱ ○四分位範囲や箱ひげ図から分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

	第 7 章 確 率	①確率	○	○	○	Ⅲ ○データの活用で学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 Ⅰ ○多数回の試行によって得られる確率と関連づけて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解している。 ○樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得るすべての場合を求めることができる。 ○簡単な場合について、場合の数をもとにして得られる確率を求めることができる。 Ⅱ ○同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考察し、説明することができる。 ○くじ引きが公平であるかどうかについて、その理由を確率に基づいて考察し、説明することができる。 Ⅲ ○場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。 ○場合の数をもとにして得られる確率を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 ○問題の条件を変えても当たりやすさに違いはないかと発展的に考え、新しい問題を見いだそうとしている。	
--	---------------------------	-----	---	---	---	---	--

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	理科	科目	理科	単位数	4	コース	全コース
教科書	「未来へ広がるサイエンス」(啓林館)						
副教材等	Key ワーク 理科 2 年 (教育開発出版))、ノート、プリント						

1 学習の到達目標

- ① 自然の事物・現象に対して関心を持ち、意欲的に進んでかかわること。
- ② 目的意識をもって観察・実験などを行うこと。
- ③ 科学的に探究する能力の基礎と態度を育てること。
- ④ 自然の事物・現象についての知識・理解を深めること。
- ⑤ 科学的な見方や考え方・表現を養うこと。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

暗記するだけが理科ではありません。授業や実験に自ら進んで取り組むことで、知識だけでなく、科学的に探究する能力や、科学的な考え方、表現力を養いましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関り、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	生 物 の 体 を つ く る も の	生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだし理解する。	○	○	○	I：生物の体のつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物と細胞のつくりの特徴についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 II：生物と細胞について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりとはたらきについての規則性や関係性を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。 III：生物と細胞に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	定期考査、パフォーマンス課題、小テスト、観察や実験活動、授業中の発言・態度、ノートやレポートなどの記述、授業や単元の振り返りシートなどで評価する。
	植 物 の 体 の つ く り と は た ら き	植物の葉や茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果とを関連づけて理解する。	○	○	○	I：植物の体のつくりとはたらきとの関係に着目しながら、葉・茎・根のつくりとはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 II：植物の体のつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物の体のつくりとはたらきについての規則性や関係性を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。	

	動物の体のつくりとはたらき	消化や呼吸、血液の循環についての観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけて理解させる。 また、不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。	○	○	○	Ⅲ：植物の体のつくりとはたらきに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 Ⅰ：動物の体のつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生命を維持するはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 Ⅱ：動物の体のつくりとはたらきのうち、生命を維持するはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 Ⅲ：動物の体のつくりとはたらきのうち、生命を維持するはたらきに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
1学期期末	動物の行動のしくみ	動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて理解する。	○	○	○	Ⅰ：動物の体のつくりとはたらきとの関係に着目しながら、刺激と反応についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 Ⅱ：動物の体のつくりとはたらきのうち、生命を維持するはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	

					Ⅲ：動物の体のつくりとはたらきのうち、刺激と反応に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
物質の成り立ち	物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。また、物質は原子や分子からできていることを認識する。	○	○	○	Ⅰ：化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、物質の分解や原子・分子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 Ⅱ：物質の成り立ちについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 Ⅲ：物質の成り立ちに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
物質の表し方	原子や分子を化学式で表すことができるようにする。また、化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化を表すことができるようにする。	○	○	○	Ⅰ：化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、物質の分解や原子・分子についての基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な化学変化の表し方などを身につけている。 Ⅱ：物質の成り立ちについて、見通しをもって解決する方法を立案してモデルを使った実習などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 Ⅲ：物質の成り立ちに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しよう	

	さ ま ざ ま な 化 学 変 化	2 種類の物質が反応して結びつく実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだす。また、さまざまな化学変化を原子・分子のモデルや化学反応式を用いて説明できるようにする。さらに、酸化と還元が同時に起きていることや、化学変化に伴う熱の出入りについても認識させ、それらが日常生活にも多く利用されていることに気づく。	○	○	○	としている。 I：化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、2種類の物質が結びつく化学変化や化学変化における酸化と還元、化学変化と熱についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 II：化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 III：化学変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
2 学 期 中 間	化 学 変 化 と 物 質 の 質 量	化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。	○	○	○	I：化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化と質量の保存、質量変化の規則性についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 II：化学変化と物質の質量について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の量的な関係を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 III：化学変化と物質の質量に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	定期考査、パフォーマンス課題、小テスト、観察や実験活動、授業中の発言・態度、ノートやレポートなどの記述、授業や単元の振り返りシートなどで評価する。

	地球をと巻きく大気のようにす	地表にあるもののすべてに大気圧がはたらい ていることを理解し、 身のまわりの大気の有 在を認識する。また、身 のまわりの大気の状態 を継続的に観測し、気 象要素の変化と天気の変 化の関係を見いだす。	○	○	○	I：気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 II：気象観測について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 III：気象観測に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
2学期期末	大気中の水の循環変化	霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解する。また、地球上の水がさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識する。	○	○	○	I：気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 II：霧や雲の発生について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、霧や雲の発生についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 III：霧や雲の発生に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	定期考査、パフォーマンス課題、小テスト、観察や実験活動、授業中の発言・態度、ノートやレポートなどの記述、授業や単元の振り返りシートなどで評価する。
	天気の変化	気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。また、日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う	○	○	○	I：気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、前線の通過と天気の変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関す	

	と 大 気 の 動 き	天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉える。				る基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 Ⅱ：前線の通過と天気の変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、前線の通過と天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 Ⅲ：前線の通過と天気の変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	大 気 の 動 き と 日 本 の 四 季	大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。さらに、日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。	○	○	○	Ⅰ：気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響、自然の恵みと気象災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている Ⅱ：日本の気象、自然の恵みと気象災害について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 Ⅲ：日本の気象、自然の恵みと気象災害に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
3 学 期	電 流 の 性 質	回路の基本的な性質や、電圧と電流の関係について規則性を見出すとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。	○	○	○	Ⅰ：電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、回路と電流・電圧、電流・電圧と電気抵抗、電気とそのエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録な	定期考査、パフォーマンス課題、小テスト、観察や実験活動、授業中の発言・態度、ノート

					どの基本的な技能を身につけている。 Ⅱ：電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流のはたらきの規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 Ⅲ：電流に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	やレポートなどの記述、授業や単元の振り返りシートなどで評価する。
電流の正体	日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見だし、真空放電の実験から、電流の正体について理解する。	○	○	○	Ⅰ：静電気に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、静電気と電流の関係や電子、放射線についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると同時に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 Ⅱ：静電気や電子に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、静電気や陰極線の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 Ⅲ：電流に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
電流と磁界	日常生活と関連づけながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解し、直流と交流の違いを捉える。	○	○	○	Ⅰ：電流と磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、電流がつくる磁界、磁界中の電流が受ける力、電磁誘導と発電についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると同時に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 Ⅱ：電流と磁界に関する現象について、	

					見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 Ⅲ：電流と磁界に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
--	--	--	--	--	--	--

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	音楽	科目	音楽	単位数	1	コース	全コース
教科書	中学生の音楽 2・3 上（教育芸術社）、中学生の器楽（教育芸術社）						
副教材等	アルトリコーダー、楽譜プリント、五線ノート						

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術も諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

音楽の基礎を学ぶ、歌う、楽器を演奏する、音楽を聴くなどの活動を通して、音楽の楽しさや美しさを感じとってほしいです。そして、多くの種類の音楽に触れることで、さらに音楽への興味が増すことを願っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱や器楽で表している。鑑賞では、音楽の構造や時代背景、作曲家などについて学習し、それぞれの関わり方や音楽の多様性について理解している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関わりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。曲の特徴を生かしてのびやかな表現を工夫し、曲想の変化を感じながら演奏する。音楽の美しさや良さを味わって聴く。	音や音楽、音楽文化、時代背景に親しむことができるように、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現および鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評 価 方 法	・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・レポート	・学習状況 ・定期考査 ・実技試験 ・発問への対応 ・レポート	・学習状況 ・発問への対応 ・レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	歌 唱 ・ 器 楽 ・ 鑑 賞	歌唱 「翼をください」 「夏の思い出」	○	○	○	I：歌唱と器楽では、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解できる。また、作詞者と作曲者についてなど楽曲背景を理解できる。鑑賞では音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解できる。 II：創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽で表現できる。 III：どのように歌うかについて思いや意図をもっている。音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱・鑑賞の学習活動に取り組もうと意欲的である。	実技試験 定期考査 学習態度 提出物 発問の反応
		器楽アルトリコーダー 「アニーローリー」 鑑賞「フーガ ト短調」 (J.S.バッハ作曲)	○	○	○		
2 学期	歌 唱 ・ 器 楽 ・ 鑑 賞	歌唱 「コーラスコンクールの合唱曲」 「夏の日の贈り物」 「荒城の月」	○	○	○	I：歌唱と器楽では、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解できる。また、作詞者と作曲者についてなど楽曲背景を理解できる。鑑賞では音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解できる。 II：創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽で表現している。 III：コーラスコンクールでの演奏曲を周りの生徒と協力しながら主体的に練習に取り組み、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	実技試験 定期考査 学習態度 提出物 発問の反応
		器楽アルトリコーダー 「虹の彼方に」 鑑賞「交響曲第5番」 (L.v.ベートーヴェン作曲)	○	○	○		

3 学 期	歌 唱 ・ 器 楽 ・ 鑑 賞	歌唱 「サンタルチア 「大切なもの」	○	○	○	Ⅰ：歌唱と器楽では、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解できる。また、作詞者と作曲者についてなど楽曲背景を理解できる。鑑賞では音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解できる。 Ⅱ：創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽で表現できる。 Ⅲ：どのように歌うかについて思いや意図をもっている。音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱・鑑賞の学習活動に取り組もうと意欲的である。	実技試験 定期考査 学習態度 提出物 発問の反応
		器楽アルトリコーダー 「ラヴァーズコンチェルト」	○	○	○		
		鑑賞「アイーダ」 (G.ヴェルディ作曲)	○	○	○		

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	美術	科目	美術	単位数	1	コース	全コース
教科書	美術 2・3 （光村図書）						
副教材等	なし						

1 学習の到達目標

表現及び鑑賞の活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的な能力をのばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

- ① 絵画分野・デザイン分野・鑑賞分野分野の基礎を学期毎に学習し身につける。
- ② 毎時間を大切に、集中して授業に取り組む姿勢を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

作品制作には集中力と持続力が不可欠。毎時間の授業を大切に、制作の各段階毎の指導事項をしっかり理解した上で、着実に丁寧な課題作品を仕上げていくこと。また、提出期限を守り課題作品すべて提出すること。未提出の場合は評価不能で点数は付かない。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	課題ごとに考察、習得した知識やノウハウを、課題を持ち越して活用、深化、応用しようとしている。また、それらに係る技術を身に付けている。	作品制作をする中で、作品の製作意図やアイデアが練られている。 またその意図やアイデアが、第三者に伝わるように、表現に工夫が成されている。	課題作品を制作する中で、自分なりに興味を持てる要素を見つけて取り組んでいる。
評 価 方 法	・制作状況 ・作品 ・発問への対応	・制作状況 ・作品 ・発問への対応	・制作状況 ・作品 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	平面デザイン	①シルエット・グラデーション	○	○	○	絵具の混色について理解を深め、筆による着色方法を習得しようとしている。	・制作状況 ・作品 ・発問への対応
1 学期 期末	絵画・デザイン	②立体物をモチーフにした色彩構成	○	○	○	モチーフの観察に基づき、立体感や質感を、絵具を使った色彩構成で表現しようとしている。	・制作状況 ・作品 ・発問への対応
2 学期 中間	平面デザイン	③装飾的平面構成	○	○	○	絵具の混色について理解を深め、筆による着色方法を習得しようとしている。	・制作状況 ・作品 ・発問への対応
2 学期 期末	立体	④立体作品の制作		○	○	粘土、木材、針金、アルミホイル等の素材の特性について理解し、立体作品の制作に活用している。	・制作状況 ・作品 ・発問への対応
3 学期	応用	⑤応用作品（平面或いは立体）制作	○	○	○	①～④の課題を通して経験した表現方法を、課題を持ち越して活用、深化、応用しようとしている。	・制作状況 ・作品 ・発問への対応

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	保健体育	科目	保健体育	単位数	3	コース	全コース
教科書	新しい保健体育 東京書籍						
副教材等	なし						

1 学習の到達目標

心身の健全な育成をはかり、スポーツの楽しさ身体活動の爽快さを学習するとともに、ルールを厳守する姿勢や礼儀を学び、習得する。心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学生に時期は心も体も急激に成長する大切な時期です。保健や体育の基礎的な知識や技能を学び、それを活用して、実社会や生活で役立つ力を身につけましょう。

「体育」：毎時間評価を行い、学期毎に数回実技テストを行う。授業に参加する態度や安全に注意しているかなどを総合的に評価する。長期の見学者については、レポートを提出させることで評価をする。

「保健」：各学期末に定期考査を実施する。授業に参加する態度や関心、意欲があるかなどを総合的に評価する。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊に実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し、判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評			

定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 期 末		「体育」集団行動、ラジオ体操、トレーニング、体づくり運動	○	○	○	I. 各種目での様々なルール・認識を身につけることができたか。 II・III. 各種目で自己の課題を見出すことができたか	行動観察，発言，発表，ワークシート，実技テスト・定期テストなど
		「保健」 1 障害の発生要因	○	○	○	I. 障害の発生要因には、人的要因と環境要因があり、障害はそれらが相互に関わりあって起こることを、言ったり書いたりしている。 II. 障害の防止に関わる事象や情報などを分析、整理し、事故の発生要因や事故防止の原則や概念を明らかにするため、課題を発見し、習得した知識を活用して科学的に思考・判断し、表現している。 危険の予測をもとに、危険を回避したり障害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 III. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	

	2 交通事故の発生要因	○	○	○	I. 交通事故による障害は、人的要因、環境要因、車両要因がかかわりあって起こることを、言ったり書いたりしている。 II. 障害の防止に関わる事象や情報などを分析、整理し、事故の発生要因や事故防止の原則や概念を明らかにするため、課題を発見し、習得した知識を活用して科学的に思考・判断し、表現している。 危険の予測をもとに、危険を回避したり障害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 III. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。
	3 交通事故の危険予測と回避	○	○	○	I. 交通事故を防ぐには、危険を予測し、安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要であることを、言ったり書いたりしている。 II. 障害の防止に関わる事象や情報などを分析、整理し、事故の発生要因や事故防止の原則や概念を明らかにするため、課題を発見し、習得した知識を活用して科学的に思考・判断し、表現している。 危険の予測をもとに、危険を回避したり障害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 III. 学習内容に関心を持ち、教科書の資

					料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。
4 犯罪被害の防止	○	○	○	I. 犯罪被害には人的要因と環境要因が関わっており、犯罪被害を防止するためには、危険を予測し、安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要であることを、言ったり、描いたりしている。 II. 障害の防止に関わる事象や情報などを分析、整理し、事故の発生要因や事故防止の原則や概念を明らかにするため、課題を発見し、習得した知識を活用して科学的に思考・判断し、表現している。 危険の予測をもとに、危険を回避したり障害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 III. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	
5 自然災害による危険	○	○	○	I. 地震などの自然災害による障害は、発生直後に起こる一時災害だけではなく、続いて起こる二次災害によっても生じることについて、言ったり書いたりし	

						ている。 Ⅱ. 障害の防止に関わる事象や情報などを分析、整理し、事故の発生要因や事故防止の原則や概念を明らかにするため、課題を発見し、習得した知識を活用して科学的に思考・判断し、表現している。 危険の予測をもとに、危険を回避したり障害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 Ⅲ. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。
6 自然災害による障害の防止	○	○	○			Ⅰ. 地震などの自然災害による障害を防止するためには、災害に備えた安全対策や災害時の安全な行動が必要であることを、言ったり書いたりしている。 Ⅱ. 障害の防止に関わる事象や情報などを分析、整理し、事故の発生要因や事故防止の原則や概念を明らかにするため、課題を発見し、習得した知識を活用して科学的に思考・判断し、表現している。 危険の予測をもとに、危険を回避したり障害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 Ⅲ. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り

						強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	
2 学 期 期 末		「体育」集団行動、ラジオ体操、トレーニング、バスケットボール、器械運動	○	○	○	I. 各種目での様々なルール・認識を身につけることができたか。 II・III. 各種目で自己の課題を見出すことができたか	行動観察，発言，発表，ワークシート，実技テスト・定期テストなど
		「保健」 7 応急手当の意義と方法	○	○	○	I. 障害による出血や骨折などの際には、迅速かつ適切な手当てが障害の悪化を防止できることなどについて理解したことを言ったり、書いたりし、止血法や包帯法を身につけている。 II. 障害の防止に関わる事象や情報などを分析、整理し、事故の発生要因や事故防止の原則や概念を明らかにするため、課題を発見し、習得した知識を活用して科学的に思考・判断し、表現している。 危険の予測をもとに、危険を回避したり障害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 III. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	

	8 心肺蘇生法	○	○	○	I. 心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当として心肺蘇生法があることとその方法について理解したことを言ったり書いたりし、胸骨圧迫、AED 使用などの心肺蘇生法を身につけている。 II. 障害の防止に関わる事象や情報などを分析、整理し、事故の発生要因や事故防止の原則や概念を明らかにするため、課題を発見し、習得した知識を活用して科学的に思考・判断し、表現している。 危険の予測をもとに、危険を回避したり障害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 III. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。
	9 生活習慣病の起こり方	○	○	○	I. 生活習慣病は、運動不足、食事の量や質の偏り、休養および睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こることことを、言ったりかいたりしている。 II. 健康な生活と生活習慣などの予防及び喫煙、飲酒薬物乱用と健康にかかわる事象や情報などから、原則や概念を基に整理したり個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。 健康な生活と生活習慣病などの予防お

					よび喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、疾病などのリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 Ⅲ. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	
		10 生活習慣病の予防	○	○ ○	Ⅰ. 生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、休養および睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できることを、言ったり書いたりしている。 Ⅱ. 健康な生活と生活習慣などの予防及び喫煙、飲酒薬物乱用と健康にかかわる事象や情報などから、原則や概念を基に整理したり個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、疾病などのリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 Ⅲ. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方	

		11 がんの予防	○	○	○	や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。 Ⅰ. がんの発生の仕方や要因と、自分でできるがんの予防には適切な生活習慣を身につけることが有効であることを、言ったり書いたりしている。 Ⅱ. 健康な生活と生活習慣などの予防及び喫煙、飲酒薬物乱用と健康にかかわる事象や情報などから、原則や概念を基に整理したり個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、疾病などのリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 Ⅲ. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	
3 学 期		「体育」集団行動、ラジオ体操、持久走、トレーニング 「保健」 12 喫煙の害と健康	○	○	○	Ⅰ. 各種目での様々なルール・認識を身につけることができたか。 Ⅱ・Ⅲ. 各種目で自己の課題を見出すことができたか。 Ⅰ. 喫煙はニコチン、タール、一酸化炭素などのたばこの有害物質により心身にさまざまな影響（害）を与え、健康を	行動観察，発言，発表，ワークシート，実技テスト・定期テストなど

					損なう原因となることを言ったり書いたりしている。 Ⅱ. 健康な生活と生活習慣などの予防及び喫煙、飲酒薬物乱用と健康にかかわる事象や情報などから、原則や概念を基に整理したり個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。 ○ 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、疾病などのリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 Ⅲ. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	
		13 飲酒の害と健康	○	○ ○	Ⅰ. 飲酒は、酒に含まれるエチルアルコールの作用により心身にさまざまな影響（害）を与え、健康を損なう原因となることを、言ったり書いたりしている。 Ⅱ. 健康な生活と生活習慣などの予防及び喫煙、飲酒薬物乱用と健康にかかわる事象や情報などから、原則や概念を基に整理したり個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、疾病などのリスクを軽減し健康を保	
				○ ○		

					持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 Ⅲ. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。
		14 薬物乱用の害と健康	○	○ ○	Ⅰ. 覚せい剤や大麻などの薬物乱用は、心身にさまざまな影響（害）を与え、健康を損なう原因となることを、言ったり書いたりしている。 Ⅱ. 健康な生活と生活習慣などの予防及び喫煙、飲酒薬物乱用と健康にかかわる事象や情報などから、原則や概念を基に整理したり個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、疾病などのリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 Ⅲ. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら

		15 薬物乱用の社会的な影響	○	○	○	ら取り組んでいる。 I. 覚せい剤や大麻などの薬物乱用は、精神に障害を起こすため、正常な社会生活を送ることが困難になったり、社会に深刻な影響をあたえたりすることがあることを、言ったり書いたりしている。 II. 健康な生活と生活習慣などの予防及び喫煙、飲酒薬物乱用と健康にかかわる事象や情報などから、原則や概念を基に整理したり個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、疾病などのリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 III. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	
		16 喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処	○	○	○	I. 喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることを、言ったり書いたりしている。 II. 健康な生活と生活習慣などの予防及び喫煙、飲酒薬物乱用と健康にかかわる事象や情報などから、原則や概念を基に整理したり個人生活と関連付けたり	

					して、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、疾病などのリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝えあっている。 Ⅲ. 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報を収集したりして、課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 自分の意見を言ったり他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。	
--	--	--	--	--	---	--

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	技術・家庭	科目	技術・家庭	単位数	2	コース	全コース
教科書	「新しい技術・家庭 技術分野」(東京書籍)「新しい技術・家庭 家庭分野」(東京書籍)						
副教材等	「技術・家庭ノート 技術分野」(新学社)、プリント、プリント用ファイル 「技術・家庭ノート 家庭分野」(新学社)、プリント、プリント用ファイル						

1 学習の到達目標

生活の自立を図る観点から実践的・体験的な活動を重視し、生活に必要な知識と技術 の習得を目指す。
さらに、生活を工夫し、創造しようとする積極的な態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

週に 1 回、2 時間 (技術分野・家庭分野) の授業を大事に受けてください。 自分では知らなかったこと、興味が持てたことをさらに追求し、そして自分自身の生活を見つめ、課題を見出し、学習したことを積極的に生活の中で役立ててください。 そのためにも何事にも好奇心を持って過ごしてください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

※成績は技術分野と家庭分野それぞれに算出し合算する。

【技術分野】

観 点	I：知識・技能	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	生活や社会で利用されている技術について理解していると ともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
評 価 方 法	定期考査、小テスト、ワークシート、製作品など	定期考査、ワークシート、レポート、製作品など	レポート、ワークシート、行動観察、発問への対応など

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

【家庭分野】

観 点	Ⅰ：知識・技能	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	家族・家庭の基本的な機能に付いて理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技術を身につけている。	これらの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と共同し、寄りよい生活の実現に向けて、課題の解決を主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
評 価 方 法	行動観察、定期考査、 製作品、実技テスト、ワーク、 ワークシートなど	行動観察、定期考査、製作品、 ワークシート、ワーク レポートなど	行動観察、ワークシート ワーク、レポート 発問への対応 など
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 Ⅰ：知識・技能 Ⅱ：思考・判断・表現 Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

【技術分野】

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1 学 期	材 料 と 加 工 の 技 術	1 章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み 1 身の回りの材料と加工の技術 2 木材の特性 3 材料に適した加工方法 4 丈夫な作品をつくるために	○	○	○	・木材の特性と特性を活かした利用方法及び、目的とする加工に応じた工具や機器について理解している。 ・身の回りの製品を丈夫にする方法を調べる活動を通して、構造と部材を丈夫にする方法について理解している。 ・木材について、生活や社会、環境とのかかわりを踏まえて、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて主体的に考えている。	定期考査 ワークシート

		2 章 材料と加工の技術による問題解決 《実習》木材加工実習	○	○	○	安全・適切な製作や検査・修正することができる技能を身に付けながら、自らの問題解決を振り返りよりよいものとなるように改善・修正しようとしている。	定期考査 行動観察 作品 ワークシート
2 学期	材料と加工の技術	《実習》木材加工実習	○	○	○	安全・適切な製作や検査・修正することができる技能を身に付けながら、自らの問題解決を振り返りよりよいものとなるように改善・修正しようとしている。	定期考査 行動観察 作品 ワークシート
		1 章 2 金属の特性 プラスチックの特性 3 章 社会の発展と材料と加工の技術	○	○	○	・金属やプラスチックの特性と特性を活かした利用方法について理解している。 ・金属及びプラスチック材料について、生活や社会、環境とのかかわりを踏まえて、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて主体的に考えている。	定期考査 ワークシート レポート
	エネルギー変換の技術	1 章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み 1 エネルギー変換の技術とは何だろう 2 発電の仕組みと特徴 3 電気を供給する仕組み	○	○	○	・電気 の特性等の原理・法則とエネルギーの変換や伝達等に係る基礎的な技術の仕組みについて理解している。 ・様々な発電方法の仕組みを理解し、プラス面マイナス面を比較しながら考えている。	定期考査 ワークシート レポート
3 学期	エネルギー変換の技術	4 電気回路について考えよう 5 電気機器を安全に使用するための技術 6 運動エネルギーへの変換と利用 7 回転運動を伝える仕組み 8 機械が動く仕組み	○	○	○	・電気、運動、熱の特性等の原理・法則とエネルギーの変換や伝達等に係る基礎的な技術の仕組みについて理解している。	定期考査 小テスト ワークシート レポート
		2 章 エネルギー変換の技術による問題解決 《実習》ポケットライトの製作	○		○	安全・適切な製作の技能を身に付け、使用目的や条件に合わせて、最適化を図りながら、よりよいものになるよう改善・修正しようとしている。	定期考査 行動観察 作品 ワークシート

		3 章 社会の発展とエネルギー変換の技術		○	○	エネルギー利用について振り返り、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて自分に何ができるか具体的に考えている。	ワークシート レポート
--	--	----------------------	--	---	---	---	----------------

【家庭分野】

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	衣生活	2 編私たちの衣生活 1 章衣服の選択と手入れ 1 どうして衣服を着るのか 2TPO 着方の工夫 3 日本の衣文化 4 衣服計画	○	○	○	・衣服と社会生活との関りについて理解している。 ・個性を生かす着用について理解し、自分らしい着方について工夫している。 ・日本の伝統的な衣文化について理解している。 ・衣服の材料や手入れについて、主体的に取り組む、実践しようとしている。	行動観察 発問の反応 ワーク 定期考査
		《実習》 作品作り（ミシン使用）	○		○	・用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。 ・生活を豊かにするための布を用いた物の製作を通して、計画的にかつ主体的に実践しようとしている。	行動観察 作品 ワークシート
2 学期	衣生活	5 衣服の手入れ 《実習》 作品作り（ミシン使用） ボタン付け、 まつり縫い 実技テスト	○	○	○	・課題解決に主体的に取り組もうとしている。 ・持続可能な衣生活を目指して工夫しようとしている。	行動観察 作品 ワークシート 実技テスト 定期考査
	食生活	4 章日常食の調理と地域の食文化 5 日本の食文化と和食の調理 6 持続可能な食生活を目指して 《実習》 ・調理実習 2 回分	○	○	○	・食生活を取り巻く様々な問題を色々な角度から考え、より良い食生活に向けて工夫し実践しようとしている。 ・調理実習を通して、食材の特徴や調理法を理解し実践することで、自らの日常生活を振り返り、工夫しようとしている。	行動観察 ワーク 定期考査

3 学 期	食 生 活	3 章調理のための食品 選択と購入 1 食品の選択と購入 2 生鮮食品と加工食品 の特徴 3 食品保存と食中毒	○	○	○	・日常生活と関連付けて、用途に応じた 食品選択を理解している。 ・食品の安全と衛生に留意することがで きる。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査
	住 生 活	3 編私たちの住生活 1 章住まいの役割と安 全な住まい方 1 もしも住まいがなか ったら 2 住まいと気候風土 3 室内環境 《実習》 平面計画とデザイン	○	○	○	・家族の生活と住空間との関わりについ て理解している。 ・日本各地の住まいの特徴について理解 している。 ・住空間の整え方について、課題の解決 に向けて主体的に取り組もうとしてい る。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	外国語	科目	英語	単位数	5	コース	全コース
教科書	NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 (三省堂) NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 学習者用デジタル教科書(三省堂)						
副教材等	中学必修テキスト英語 2 年 NEW CROWN (三省堂) サポートブック英語 2 年 (三省堂)						

1 学習の到達目標

英語の「読む・聞く・書く・話す」の 4 技能を総合的に伸ばしていくことを目指す。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

予習、復習を自らすすんでする習慣をつけましょう。また、授業を大切にし、授業中に積極的に英語を使うよう、心がけてください。英語を学習することを通じて、豊かな人間性を育んでいきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音声、語彙、表現、文法、言葉の働きなどを理解し (= 知識)、それらを課題や状況に合わせて、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる (= 技能)。	目的や場面、状況を設定した言語運用課題を通して、日常的・社会的な話題・内容について、理解し、他者と自分の考えなどを表現しあうことができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。また、自己調整しながら、粘り強く学習に取り組むことができる。
評 価 方 法	・ 定期考査 ・ 宿題考査 ・ 小テスト	・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 小テスト ・ 授業の様子 ・ オンライン英会話	・ 授業への取り組み ・ 提出課題 ・ オンライン英会話

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I : 知識・技能 II : 思考・判断・表現 III : 主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	L1	Peter Rabbit ・ 接続詞	○	○	○	・ 接続詞 when 、 if の意味や働きを理解し、運用する技能を身につけている。 ・ 接続詞 that を用いた文の構造を理解し、運用する技能を身につけている。 ・ to 不定詞(名詞用法・副詞用法・形容詞用法)の特徴やきまりに関する事項を理解し、運用する技能を身につけている。	定期考査 小テスト 提出課題 授業の様子 授業への取り組み
	L2	My Dream ・ to 不定詞	○	○	○		
1 学期 期末	L3	Every Drop Counts ・ There is (are)～ ・ 動名詞	○	○	○	・ There is (are)～ を用いた文の構造を理解し、運用する技能を身につけている。 ・ 動名詞の意味や働きを理解し、運用する技能を身につけている。	定期考査 小テスト 提出課題 授業の様子 授業への取り組み
2 学期 中間	L4	Uluru ・ 動詞(give, call, make など)+ A+B	○	○	○	・ <動詞(give, call, make など)+ A+B >の特徴やきまりに関する事項を理解し、運用する技能を身につけている。 ・ 形容詞の比較級を用いた文の構造を理解し、運用する技能を身につけている。 ・ 同等比較、副詞の比較級を用いた文の構造を理解し、運用する技能を身につけている。 ・ 疑問詞(how など)+ to～ の意味や働きを理解し、運用する技能を身につけている。	定期考査 小テスト 提出課題 授業の様子 授業への取り組み
	L5	Things to Do in Japan ・ 形容詞の比較級 ・ 同等比較 ・ 疑問詞(how など)+ to～	○	○	○		
2 学期 期末	L6	Tea from China ・ 現在完了形(継続用法)	○	○	○	・ 現在完了形(継続用法)の肯定文、疑問文、否定文の特徴やきまりに関する事項を理解し、運用する技能を身につけている。	定期考査 小テスト 提出課題 授業の様子 授業への取り組み
3 学期	L7	Rakugo Goes Overseas ・ 現在完了形(完了用法・経験用法) 英語検定団体受験対策	○	○	○	・ 現在完了形(完了用法、継続用法)の肯定文、疑問文、否定文の特徴やきまりに関する事項を理解し、運用する技能を身につけている。	定期考査 小テスト 提出課題 授業の様子 授業への取り組み

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	英会話	科目	英会話	単位数	1	コース	特進・進学
教科書	なし						
副教材等	My First Passport 1 student book (Oxford)						

1 学習の到達目標

- ・場面に応じた英会話の基本フレーズを学び、自分の言葉として使えるようになる。
- ・英語圏の文化・習慣について興味関心を持つ。
- ・ネイティブの発音に慣れ、相手の話す内容の大意を理解できるようになる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では間違いを恐れず英語を「話す」ことを積極的におこないましょう。英会話は、まず真似をすることから始まります。耳でしっかりと聞き、聞いたものをその都度声に出して試みるのが何より大切です。自宅でも自分で復習できるように、出てきた単語やフレーズの正しい発音と意味は必ずメモを取りましょう。基本フレーズを覚えたら、さらに授業で出てきた表現例を自分の言葉に置き換えて使えるようにしていきます。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の4技能（話す、書く、聞く、読む）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面、目的、状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・各レッスンにおける確認テスト（語句・単語）	・各レッスンにおける確認テスト（リスニング） ・提出課題への取り組み	・学期ごとに実施する確認テスト（スピーキング） ・発問への反応、発言 ・提出課題への取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに合わせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	L0	・授業で使う英語 ・空港でのやり取り ・教室での自己紹介 ・ホームステイ先での部屋の案内	○	○	○	・挨拶や授業で使う英語表現を理解し使える。 ・税関で使う語句を理解できる。 ・旅行に関わる語句を理解できる。 ・疑問詞を含む疑問文を理解し使える。 ・場所・物の位置表現を理解し使える。	学習態度 確認テスト 発問の反応 提出課題
	L1		○	○	○		
	L2		○	○	○		
	L3		○	○	○		
1 学期 期末	L4	・ホテルのフロントでのやり取り ・日本文化の紹介 ・観戦・観劇後の感想	○	○	○	・時間を伝えられる。 ・疑問詞を含む疑問文を理解し使える。 ・日本文化に関わる語句を理解できる。 ・趣味に関わる語句を理解できる。 ・interesting, tough, too bad など感想に関わる語句を理解し使える ・スポーツ観戦・観劇の感想を伝え、また相手に聞くことができる。	学習態度 確認テスト 発問の反応 提出課題
	L5		○	○	○		
	L6		○	○	○		
2 学期 中間	L7	・ホームステイ先での朝食 ・地下鉄の乗り方 ・～してもいいですか？	○	○	○	・助動詞を含む敬語の依頼表現を理解し使える。 ・some の意味と含まれる表現を理解し使える。 ・朝食に出てくる食べ物の語句を理解できる。 ・チケット購入のやり取りができる。 ・行き先を相手に伝えられる。 ・how to～表現を理解し使える。 ・物の場所を言い表すことができる。 ・自分の趣味の話または相手の趣味の話理解し伝えることができる。 ・敬語で依頼できる。	学習態度 確認テスト 発問の反応 提出課題
	L8		○	○	○		
	L9		○	○	○		
2 学期 期	L10	・相手の興味関心ごとをたずねる ・電話での会話表現	○	○	○	・電話表現を理解し使える。 ・疑問詞を含む疑問文を理解し使える。 ・家族関係の語句を理解できる。 ・動名詞の表現を理解し、また動名詞が	学習態度 確認テスト 発問の反応 提出課題
	L11		○	○	○		

末	L12	・家族紹介	○	○	○	含まれる文を自分で作ることができる。	
3 学 期	L13 L14 L15	・マーケットでのやり取り ・未来の予定を伝える ・買い物表現	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・物の値段を聞き取り、また相手に伝えることができる。 ・店で食品を注文できる。 ・屋台で販売されている食品の単語を理解できる。 ・進行形を理解し使える。 ・未来の予定を相手に正しく伝えることができる。 ・描写に関わる形容詞を理解し使える。 ・食品を説明する形容詞を理解し使える。	学習態度 確認テスト 発問の反応 提出課題

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	コールユーブンゲン	科目	コールユーブンゲン	単位数	1	コース	音楽
教科書	コールユーブンゲン（大阪開成館発行）						
副教材等	子供のためのソルフェージュ 1a・1b（音楽之友社）						

1 学習の到達目標

・基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。 ・音感やリズム感を養い、読譜力の向上につなげる。 ・正しい音程を身に付け、また音程を正しく聴き取る力を培う。 ・新曲視唱では素早く読譜し、正確に視唱できる力を養う。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。コールユーブンゲンや新曲視唱で歌唱力、正しい音感やリズム感を養ってください。それらは専攻実技も含め、全ての音楽専門教科に通じます。不得意な場合も諦めず、続けて努力していきましょう！きっと多くの知識と能力が身につくはずです。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	譜表に書かれた楽譜を見て、音楽を形づくっている要素を正しく読み取り、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、旋律やフレーズのまとまりなど様々な情報を読み取り、歌唱に活かすことができる。	音高や音程、リズムなどを正しく把握し、旋律における音のまとまり、自然な抑揚といった豊かな表現をもって歌うことができる。	音高やリズムを正しく表現できるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・実技試験	・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	付点音符と拍子	コールユーブンゲン No.26～29 二分音符を一拍に歌うこと、付点音符、3/8 拍子と 6/8 拍子 子供のためのソルフェージュ 1a 第 5 課	○	○	○	I：和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。単純拍子と複合拍子の違いを明確に理解し、表現することができる。 II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱では 3/4 拍子を中心にさまざまな種類の曲を自発的に取り組むことができる。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
2 学期	五度音程・リズム	コールユーブンゲン No.30～33 五度音程、音程の転回、シンコペーション 子供のためのソルフェージュ 1a 第 6 課	○	○	○	I：和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、五度音程の音感を取得し、それらを踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。シンコペーションを用いて、リズム感を養うことができる。 II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱ではタイとシンコペーションを取り上げ、リズム練習を中心にさまざまな種類の曲を自発的に取り組むことができる。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応

3 学 期	弱 起 ・ 六 度 音 程	コールユーブンゲン No.34～36 弱起、六度音程	○	○	○	I：和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、六度音程の音感を取得し、それらを踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。弱起の読譜や歌唱にも対応できる。 II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱ではヘ音記号の読譜もふまえて Cdur、a moll の調性を中心にさまざまな種類の曲を自発的に取り組むことができる。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		子供のためのソルフェージュ 1b 第1課	○	○	○		

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	聴音	科目	聴音	単位数	1	コース	音楽
教科書	なし						
副教材等	五線ノート						

1 学習の到達目標

基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。音感、リズム感等を養い、読譜力の向上につなげる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。不得意な場合も諦めず、続けて努力してみてください。リズムや調性を覚えることによって、音感やリズム感を養ってください。頑張ってください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽を形作っている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。	音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。	旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求を主体的に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		

1 学 期	単 旋 律	高音部記号、低音部記号 (3/4、4/4、6/8 拍子) C: a: (4～8 小節)	○	○	○	五線に正しく記譜できている。 簡単な旋律が聴きとれる。 8 小節の旋律が聴きとれる。 新しい課題を取り入れ、1 年次より複雑な旋律を理解しようとしている。	五線への書き取り 学習状況
	複 旋 律	2 声 C:	○	○	○	大譜表を理解できている。 音の高さが判断でき、重音を聴きとれる。	主体的な授業態度 定期テスト
	三 和 音	基本形、転回形 (2/2 拍子) C: 四声体 : 2/2 C: (4 小節)	○	○	○	四声体を学習し、ピアノ曲の表現に主体的に活用しようとしている。	
2 学 期	単 旋 律	高音部記号、低音部記号 (3/4、4/4、6/8 拍子) C: a: (4～8 小節)	○	○	○	複雑な旋律を聴きとれる。 跳躍した音を聴きとれる。 新しい課題を取り入れ、複雑な旋律を理解しようとしている。	五線への書き取り 学習状況
	複 旋 律	2 声 C:	○	○	○	大譜表を理解している。 音の高さが判断でき、重音を聴きとれる。	主体的な授業態度 定期テスト
	三 和 音	基本形、転回形 (2/2 拍子) C: (4 小節)	○	○	○	和声の流れを感じ取ることが出来る。 四声体を学習し、ピアノ曲の表現に主体的に活用しようとしている。	
3 学 期	単 旋 律	高音部記号、低音部記号 (3/4、4/4、6/8 拍子) C: a: (4～8 小節)	○	○	○	複雑なリズム、跳躍した音程を聴きとることが出来る。 新しい課題を取り入れ、複雑な旋律を理解しようとしている。	五線への書き取り 学習状況
	複 旋 律	2 声 C:	○	○	○	大譜表を理解している。 音の高さが判断でき、重音を聴きとれる。	主体的な授業態度
	三 和 音	基本形、転回形 (2/2 拍子) C: (4 小節) 四声体 : 2/2 C: (4 小節)	○	○	○	Sop、Alt、Ten、Bass の音を聴きとることが出来る。 和音の流れを感じ取ることが出来る。 四声体を学習し、ピアノ曲の表現に主体的に活用しようとしている。	定期テスト

2024 年度 相愛中学校 2 年 シラバス

教科	楽典	科目	楽典	単位数	1	コース	音楽
教科書	新装版「楽典 理論と実習」(音楽之友社)						
副教材等	プリント、バインダー、i Pad						

1 学習の到達目標

音楽や楽譜についての基礎知識を習得。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

実技の演奏に繋がるよう楽譜の基礎知識を習得してください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	楽譜の基礎知識・理解を深め、音楽を形作っている要素を正しく知り、楽譜の読み書きができる。	音楽を伝える手段として、楽譜の発展がなされ、音源が無くとも楽譜が楽曲の形式や曲想、様相などを思考・判断している。	楽譜の表面的な音の並びだけにとらわれず、音楽性豊かな表現の追求を主体的、協働的に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・課題の取り組み ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I : 知識・技能 II : 思考・判断・表現 III : 主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	主に評価 する観点			単元 (題材) の評価基準	評価方法
		I	II	III		

1 学 期	楽譜について	1.五線 2.音部記号 3.音符・休符 4.拍子 5.音名(日本・ドイツ語)	○	○	○	I：音を表す基礎となる音部記号や音名、音符、拍子の種類等の理解を深め、音楽を形作っている要素を正しく知り、楽譜の読み書きができる。 II：音楽を伝える手段として、音を表す基礎となる音部記号や、音名、音符、拍子の種類を元にし、曲想や様相などを思考・判断している。 III：楽譜の表面的な音の並びだけにとらわれず、音楽性豊かな表現の追求を主体的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 ・課題の取り組み
2 学 期	音程	音程	○	○	○	I：音程の理解を深め、実際の音と結び付けて感じることができる。 II：音程を感じるにより、曲想や様相などを思考・判断している。 III：楽譜の表面的な音の並びだけにとらわれず、音楽性豊かな表現の追求を、主体的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 ・課題の取り組み
3 学 期	音階	音階	○	○	○	I：調性について理解し、様々な問題を解くことができる。 II：調性を感じ取り、曲想や様相などを思考・判断している。 III：楽譜の表面的な音の並びだけにとらわれず、音楽性豊かな表現の追求を主体的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 ・課題の取り組み